

第4学年体育科「スペースを見つけてつなぐ勝利への道筋 ～ゴール型ゲーム（2ゴールスライドサッカー）～

学習指導者 安岐 美佐子

守備が1人の易しいゲームを体験した子供たちは、「チームの得点を増やそう」と目標を設定し、練習の中で、ボールを蹴る、止めるなどの基本的なボール操作を身に付けていきました。得点が増え、自信がついた子供たちは、「守備が2人の難しいゲーム」で隣の学級と「クラスマッチをして勝とう」と新たな目標を共有し、練習やゲームの中でボールを持たない人の動きを考えていきました。

さらに得点を増やすために守りがいない空いている場所に行く動きを試そう

4点とるために、両サイド作戦を使って走る場所を確かめよう

3点とるために、ちょこちょこ作戦でボールをつなごう

【見通し】

前時に設定した全体の課題を確認した後、チームごとに、「課題解決ボード」に書いている課題を確認しました。その後、補助黒板を手掛かりに、チームごとにどのように練習に取り組むか、課題解決の見通しをもちました。そして、解決後には、その成果をゲームの中で試すということを確認しました。



【行動】

チームの課題解決に向けた練習では、ゆっくり確かめながら動いたり、やり直したりする中で、友達と動く場所を伝え合い、何度も試していきました。練習の途中、ボールを持たない人が守りから遠く、重ならない場所に行けばよいことを実演しながら全体で共有しました。常に課題解決できたかをチームで確認しながら取り組み、練習後にゲームをしました。その中で、時間内で得点をさらに増やすためには、素早いパスも必要だということに気付いていきました。



【振り返り】

チームで、互いの「できたこと、分かったこと」と「その理由」を振り返り、課題が解決したかどうかを確認しました。そして、「課題解決ボード」に書かれた得点するために必要なものの中から、「より得点に繋がりそうなものを選ぶ」という方法を使い、チームで相談しながら次時の課題を新しく選んだり、同じ課題を再設定したりしました。できたことや分かったことの理由を全体で共有し、方法を使うことや友達と学ぶよさを感じていました。



成果と課題

○チームでボードを使って動き方を確認したり、「課題解決ボード」で課題設定や学習状況の確認をしたりする中で、守りがいない場所へ動く必要性に気付いたり、チームで得点を増やすための課題や作戦を選んだりすることができていた。
▲試した動きについて、うまくいった理由や上手いかなかった理由を練習やゲームをしながら声を掛け合える子もいたが、チームの中で共有する時間をしっかり設けられるとよかった。